

耳の弥勒堂とみみろくさん

(耳)

耳集落の山麓の一番高いところに弥勒菩薩^{みろくぼさつ}を安置する弥勒堂がある。

現在のお堂は、昭和63年(1988)に全面改築されたものである。

当堂は、関金の曹洞宗^{ほうがん}法願寺^じの説教所になっている。

本尊の弥勒菩薩木像^{※むな}は、棟札^{ふだ}によって、理由は不明であるが、文久3年(1863)法願寺住職九世得量^{とくりょう}の時代に造像されたものであることがわかった。弥勒菩薩の「みろく」の音読から古くから「みみろくさん」と親しまれている。その関係からか耳の疾病^りに利益^{やく}があると伝えられている。本来の弥勒利益との関連は不明である。



このお堂には珍しい風習が今でも残っている。供物として、木椀^{もくわん}、貝殻、平たく丸い石などに願主^{※がんしゅ}などを書き、中央に穴をあけて、針金や紐を通してかける。耳がよく聞こえるように祈願するためという。

(注)

棟札：棟上げや再建・修理の工事の由緒、建築の年月、建築者または工匠の名などを記入して棟木に打ち付ける札。同様の物の総称。

願主：神仏に願いを立てる人